



都市型医療介護情報連携が鶴見区からスタート サルビアねっとで、より安心の医療介護を！



横浜市では、昨年3月に、都市部におけるICTを活用した地域医療連携ネットワークの推進に必要な要件等を、本市独自のガイドラインとして公表したところです。

そのガイドラインを満たす、電子カルテといった医療情報を地域の医療・介護従事者間で共有する**初**の仕組みとして、鶴見区を中心とした医療機関・介護施設等が参加するサルビアねっとが3月27日より運用を開始します。

1 「サルビアねっと」とは

鶴見区の病院・クリニック・薬局・介護施設などが参加しています。

現在、鶴見区にある **55施設** が参加しています。今後は参加施設も拡充予定です。

なお、既に参加を希望する市民の皆様のお申し込みはスタートしており、本日時点で、既に **4,500人以上** が登録しています。



【アイコンとネットワーク名の由来】



鶴見区の区花であるサルビアがモチーフ。ハチドリを「医療・介護施設をつなぐ役割」、サルビアの細やかな花（点）を「多様な情報」にみたて、共有／連携される様子を表現しています。

2 運営主体

鶴見区の医療機関等が新たに設置する一般社団法人サルビアねっと協議会が運営します。サルビアねっとは、**参加する医療機関が負担する利用料**で運営されます。

3 参加登録方法

参加を希望する住民の方は、申込書を記入いただき、サルビアねっと協議会へ提出してください。詳しい方法は、参加医療機関、あるいは以下のwebサイトをご確認ください。

申込書 web サイト (<http://tsurumi-salvia.net/download.html>)



4 横浜市内における今後の展開について

横浜市内の他地域でもサルビアねっとのような仕組みの導入を進め、将来的には、市内全域をネットワークし、医療介護の現場で必要な情報を共有できる仕組みの実現につなげます。

【参考】共有される情報例と、メリットについて ※サルビアねっとホームページより引用

共有される情報は？

- ◎ 電子カルテ情報
- ◎ 過去の薬の処方歴
- ◎ アレルギー
- ◎ 医療機関の受診履歴
- ◎ 検査結果
- ◎ など



受診履歴



電子カルテ情報



検査結果

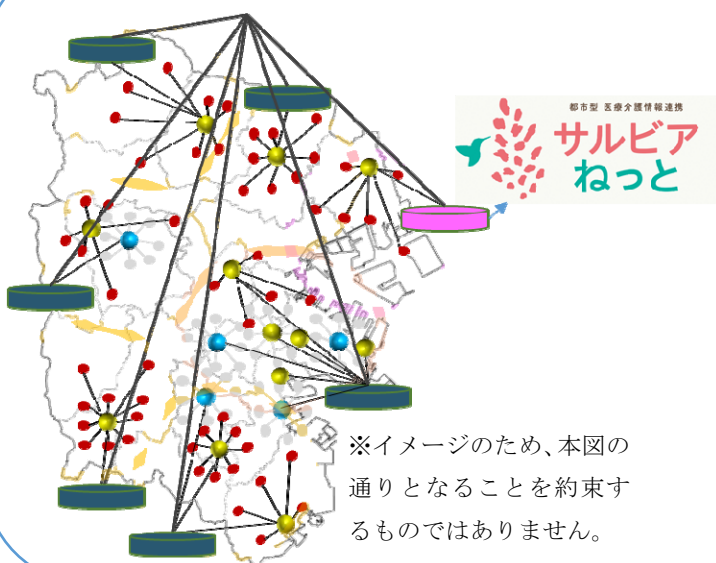
医療・介護施設が繋がると
何がいいの？

複数の病院を受診している際に、持病や処方されている薬の情報を各病院の医師がすぐに確認でき、薬や検査の重複などを防ぐことができます。また救急搬送された場合にも、同じ情報が共有されます。



【参考】横浜市における展開イメージについて

地域ごとの取組を市全域に展開するイメージ図



※イメージのため、本図の通りとなることを約束するものではありません。

本市ガイドラインは、地域・領域が構築・運用する ICT を活用した地域医療連携ネットワークを相互接続できるように、技術仕様や、患者同意に必要な項目など、構築・運用の諸条件を定めています。

医療提供体制が地域や疾患領域ごとの特色によってそれぞれ異なることを踏まえて、ICT を活用した地域医療連携ネットワークも、こうした展開手法を選択しています。

【参考】横浜市のガイドラインは以下の URL から参照してください。

横浜市医療局 ICT を活用した地域医療連携ネットワークガイドライン

<http://www.city.yokohama.lg.jp/iryo/ict/guideline/>

スマートフォン等からのアクセスはこちらのQRコードから



お問合せ先

医療局医療政策課長 本間 明 Tel 045-671-2438

【サルビアねっとに関して】サルビアねっと事務局 (神奈川県済生会横浜市東部病院)
事務部 折登・多田 Tel 045-576-3000 (代表)